

「2017年の回顧と2018年の展望」

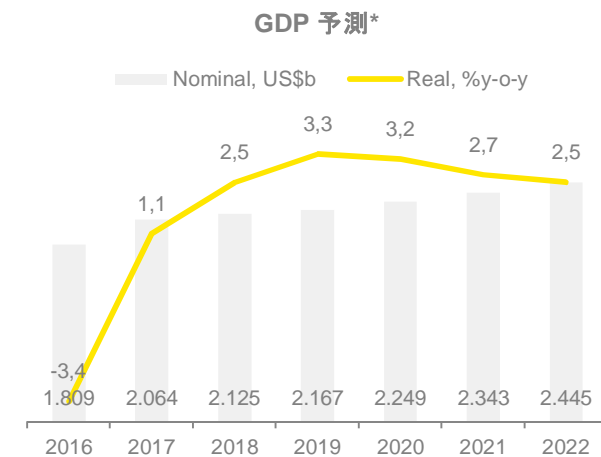
『いま求められる新たな視点は』

コンサルタント部会

# ブラジル政治、経済環境

- u ブラジルの2018年GDP予想は2.8%と予測され2017年の1.1%を上回ることが期待されている
- u 経済活動回復に伴う失業率の低下、製造業部門生産回復、一般消費者向けクレジット部門拡大、クレジットの延滞率低下などの要因
- u インフレはブラジル中央銀行が目標としている4.1%を上回る可能性は低く、金利も抑制傾向が期待される
- u ブラジルは直接投資の受入は引き続き高いことが期待されているが、大統領選挙がブラジル市場、投資家に不安を高める要素となる可能際がある
- u ブラジルの主な直接投資国<sup>2</sup>— 1位 米国22%、2位 オランダ15%、3位 ルクセンブルク7%、4位 フランス6% ...11位 日本2.2%

Indicator*	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
金利 (%)	14,2	10,1	6,8	7,7	8,0	8,0	7,8
インフレ, %y-o-y	8,8	3,5	4,1	4,2	4,0	4,0	4,0
輸出, US\$b	184,5	215,1	218,6	227,5	238,7	251,7	265,6
輸入, US\$b	139,4	151,4	162,3	171,7	183,4	195,6	208,3
直接投資, US\$b	65,4	60,2	60,1	62,6	69,2	76,2	83,7



# ブラジル政治、経済環境

## 最近の動向

- u 2018年統領選挙においては有力候補がなく、出馬候補が乱立見込み。選挙結果如何によって将来の不確実性が大きく左右される
- u 政権が不安定であることを理由として、年金改革、税制改革の実行が遅れ、政府財政の改善が選挙後となった
- u 2017年7月に労働法改正が執行が決定された。労働者と企業での交渉可能とする規定が多く盛り込まれた。

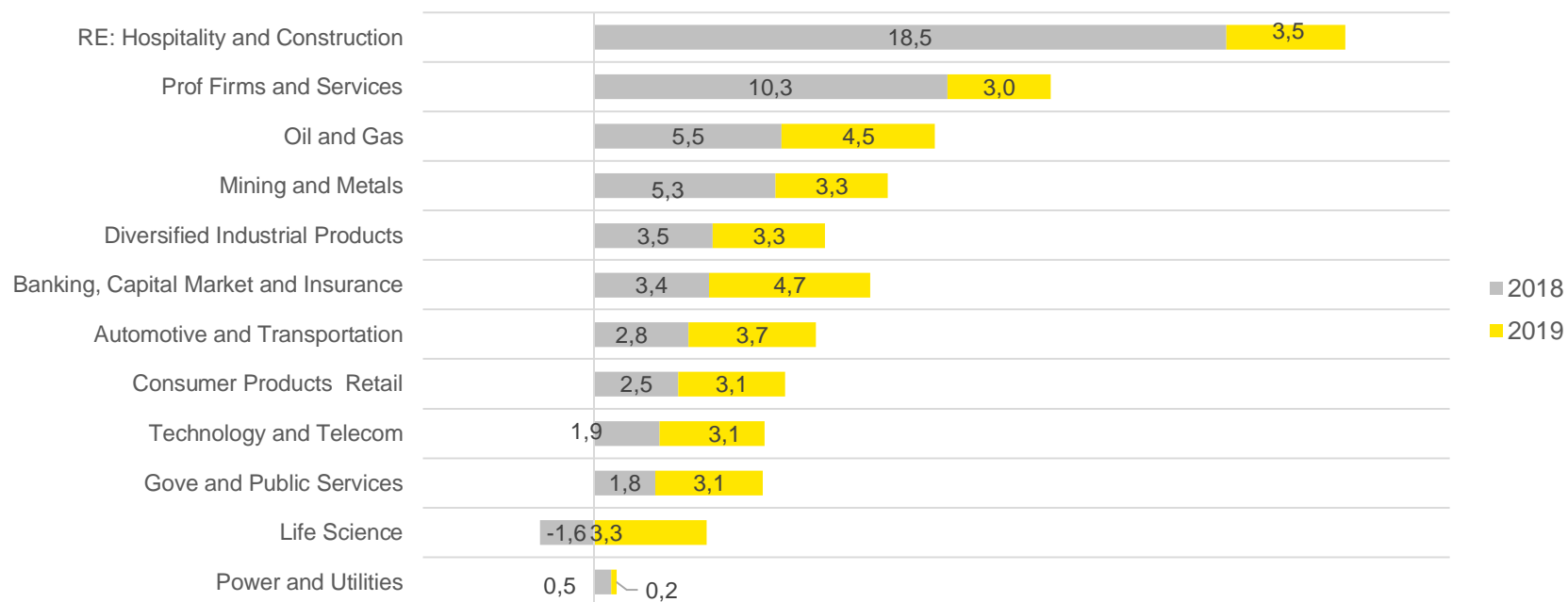


## ブラジルリスクシナリオ

- u 政権不安定なため、直接投資減少する可能性あり
- u 対内公的債務残高はGDP比73.9% (2017年9月現在)
- u ブラジルコストは複雑な税制や労務、インフラの不整備、ブロクラシーの問題などの課題はまだある。
- u 中国経済の経済成長率の鈍化

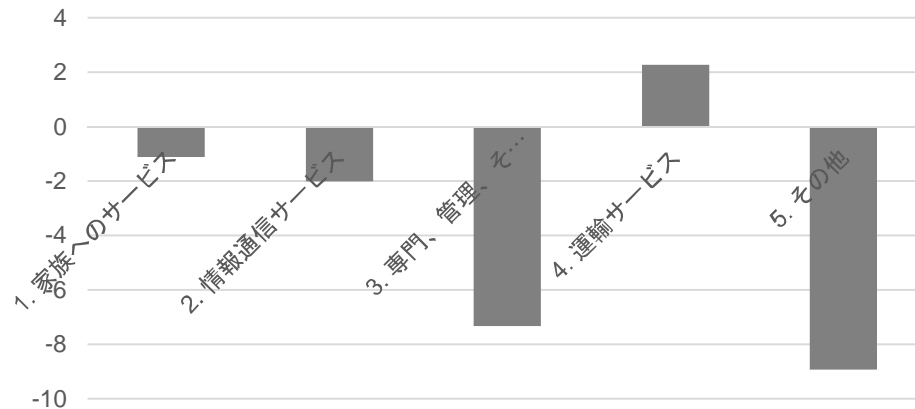
# ブラジル経済 政権不安定要素に関わらず、各産業回復予測

各産業別付加価値ベースの成長率予測 (2018年及び2019年), % y-o-y

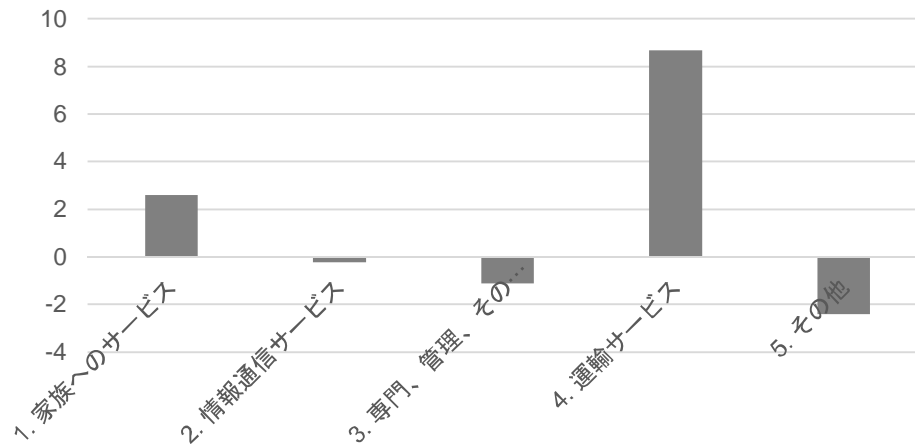


# 2017年サービス業の業績

## サービス業のボリューム



## サービス業の収益



出所: IBGE 2018.

- 2017年のブラジルでのサービス業のボリュームは去年と比べ2.8%マイナスとなった。収益は2.5%プラスとなった
- 2017年12月には同年11月に比べて1.3%のプラスとまっている。2018年のブラジル経済の状況によって業界の回復があるかが決まる可能性がある。

# コンサルティング会社の案件

- ▶ ブラジルでのM&Aや投資についての問い合わせが去年末から増加
- ▶ ITセキュリティについて
- ▶ 不正防止、不正調査やその対応
- ▶ 移転価格、間接税（特にICMSクレジット滞留）
- ▶ 労働改正、移民法についての問い合わせ
- ▶ 南米の組織編制や見直し
- ▶ 特にアルゼンチンの投資などの問い合わせの増加

# 『いま求められる新たな視点は』

- ▶ **ビジネスモデルを考える**
- ▶ ブラジルの市場にあった日本の商品
- ▶ 物流の変化（インターネットなど）
- ▶ 売れる商品
  
- ▶ **労働法改正のベネフィット**
- ▶ 企業、従業員にもベネフィットとなる規定
- ▶ 労働訴訟件数減
  
- ▶ **ブラジルへの投資**
- ▶ インフラ（民営化、教育、医療など）
- ▶ ファミリー企業のオポチュニティー